

進む日本の少子高齢化

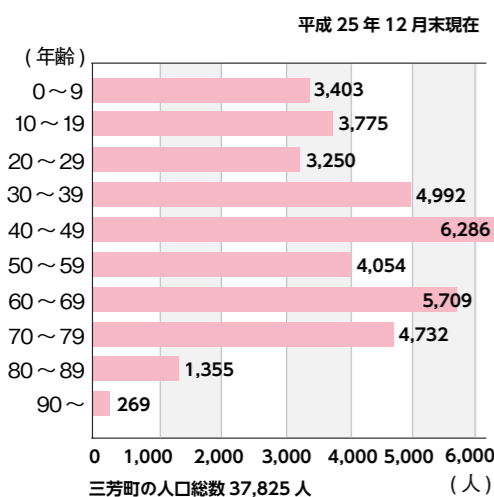
日本の人口は、2048年に1億人を割り、2060年には今より3割減少し、15～64歳の人口は2060年に50.9%になると見込まれています。また、65歳以上の人口は、2060年には約4割の39.9%、2.5人に1人が65歳以上となると見込まれています※。一方、平成25年の合計特殊出生率（1人の女性が生涯に生むとされる子どもの人数）は1.43でした。

※出典：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）

三芳町の出生数と年齢別人口数から見る現状

平成25年の三芳町での出生数は255人。前年は282人で、27人減少しました。また死亡者数は329人。転入者数は1,278人、転出者数は1,417人。139人が減少し、全体で三芳町の人口はこの一年で213人減少となりました。年齢別の人口数を見ると、40歳代がもっとも多く、次いで60歳代となっています。この数字から少子高齢化が進んでいることを読み取ることができます（数字は統計みよし平成25年から）。こうした現状をふまえ、未来を担っていく子どもたちや若年層に対して、自分自身が何ができるのかを、考えていくときがきています。

三芳町の年齢別人口数



町が、地域が、企業が今できることは何か

町では多くの事業を通じて出産前から育児のサポートを行っています。その事業を通して輪が広まり、自主的にサークルを作り、子育てを楽しむ人たちがあります。また、少子化の原因のひとつに、仕事と子育てを両立するのが難しいという問題があります。そうし

ちゃんや児童は虐待を受けても、自分から助けを求めることはできません。だからこそ地域で普段から声をかけあい、支えあい、助けあうことが大切で

す。「いつもと違う」「こんな時間まで外に出てる子だったかな」など、変化を読み取り、通報するなどして子どもを守らなければなりません。

育児ノイローゼ マタニティー・ブルー

「無表情でぼんやりしている」「元氣

泣きながら生まれてきたわが子。その泣き声はとつても愛おしいものであったはず。しかし、2時間おきに授乳し、おむつを替え、夜泣きをすれば起こされ、泣き止むまであやす。それを毎日繰り返す。仕事では休憩時間がありますが、育児にはなく、24時間仕事をしている、といつても過言ではありません。

さまざまな要因でストレスが溜り、あれほど愛おしかった泣き声が耳ざわりになり、叩きつけたくなる衝動に駆られる。そういう気持ちになった人も少なくないのではないだろうか。

新しい物語の始まり

子どもが誕生するということは、家族の新しい「物語」の始まりを意味します。それまで育てられてきた人が、育てる側になる。しかし、希望に満ちた日々を理想としても、現実には簡単なものではありません。

日本でも新しい命が誕生する時間。同時に新しい親が生まれる瞬間でもあります。また、48秒に一組が婚姻し新しい生活をスタートさせています※1。一分にも満たない間に、さまざまな物語が日本のどこかで生まれているのです。

がなく、話しかけても反応しない」「物事に対してマイナスに考えてしまう」「不眠症、睡眠障害」「閉じこもりがちになる」。

これらの症状がでたら育児ノイローゼかもしれません。出産直後のホルモンバランスが崩れ、平穏でいられなくなる「マタニティー・ブルー」（産後うつ）や赤ちゃんとうつと2人きりになる「密室育児」がその一因と言われています。

核家族が進み、身近なところに頼る人がいないため、ずっと密室で赤ちゃんと2人きりになる。相談できる友人もいない、夫は仕事が忙しく話を聞いてくれない……。

次第に閉鎖的になり、自身がつになつたり、そのストレスが子どもに向いてしまう危険性を、誰でも秘めているのです。

年々増加する児童虐待

全国の児童相談所が対応した児童虐待の件数は7万3765件となり、前年よりも10・6%も増加しました※2。虐待の件数が増えたことでもあります。全国的に見る児童虐待への意識の高まりにより、相談・通報の件数が増えたことも増加要因としてあります。虐待の多くは実母が行い、未就学児（小学校入学前）に対する虐待の割合が一番多く、全体の約4割となっています。また言葉が話すことができない赤

た人のために、町内の企業が託児所を作り、受け入れるという取り組みも始まっています。

子育てを終えたママや退職し、ボランティアをしている人たちが育児に奮闘する人たちのため、町に住む子どもたちのために、尽力していることはあまり知られていません。

愛のある町。

三芳町にめぐりあい、暮らしている。人口4万人弱の三芳町民、それぞれに物語があります。これから始まる希望ある未来を手にした三芳町の子どもたちが「三芳に生まれてよかった」と胸を張って言える、愛のある町へ。そのために、子育てについて考えてみてください。今月は子育て特集です。

あなたとめぐりあい、結婚し、子どもが生まれた。そして三芳町にめぐりあい、暮らすことになった。今月は「子育て特集」。町が、地域が、家族ができることを一緒に考えてみませんか。

■ スマホをかざすと写真が動く。ARの導入方法

紙面上のQRコードで内容に関連したサイトを見られます。YouTubeがあるQRコードは関連イベントなどの動画、写真がある写真や人物にスマートホンやタブレット端末でかざすと写真が動くAR（拡張現実）を体験できます。AR導入手順は下記を参照ください。

- 1 Apple Store、Google play から「Aurasma」で検索し、インストール。
- 2 アプリ起動後、右に5回スクロール。右下の「Skip」をタップ。
- 3 下部の順にタップ。「三芳町」と入力し検索。
- 4 写真をタップし、右上の「フォローする」をタップ、フォローする。
- 5 下部中央のカメラアイコンをタップしカメラモードに。これでかざすと動きます。

※AR再生中、ダブルタップをするとフルスクリーンに。ずっとかざす必要はありません。ワンタップで関連したサイトに移動します。詳細は「三芳町AR」で検索。

問 秘書広報室 ☎ 049-258-0019（内線314）



子育て特集 愛のある町。

めぐり愛
ささえ愛
たすけ愛

※1 厚生労働省平成25年人口動態統計から
※2 厚生労働省児童相談所での児童虐待相談対応件数（平成25年度速報値）から